

ボッシュ社が認定する「CDR アナリスト資格」取得者を 15 名に増員

2018年5月24日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（社長：金杉 恭三）は、自動車事故の調査を委託するあいおいニッセイ同和損害調査株式会社（社長：黒田 昌浩、以下「損調社」）にて EDR データを活用した自動車事故の原因調査・研究を行っています。

5月18日、損調社に所属する10名の技術アジャスターが、ボッシュ株式会社の認定する「CDR アナリスト資格」を今般新たに取得しました。昨年の10月に資格を取得した5名と合わせて、15名体制となり、国内損害保険会社では最大の調査体制を構築しました。これにより、すでに開始している EDR データを活用した自動車事故の原因調査・研究を全国各地で、より迅速に対応することが可能となりました。

今後も、お客さまに選ばれる会社を目指し、業界 No. 1 の特色ある損害サービス力の実現に向けて取り組みます。

※EDR（イベント・データ・レコーダ/Event Date Recorder）

EDR はエアバッグ制御用のコンピュータに内蔵されており、衝突から約5秒間さかのぼって自動車の挙動などの情報を記録する。日本では4月17日に政府が発表した「自動運転に係る制度整備大綱」の中に走行記録装置の設置義務化を検討しており、今後はこのデータを活用した自動車事故の原因調査・研究が増加することが見込まれる。

※CDR アナリスト資格

EDR データを取得するためにはボッシュ社の CDR（クラッシュ・データ・リトリバル/Crash Data Retrieval）が必要となる。CDR で取得したデータを正確に解析するためには高度なスキルが必要となり、その為の専門トレーニングを受け、試験に合格した者にのみ与えられる資格。



【CDR アナリストトレーニングを経て10名が今回新たに資格を取得】

以上